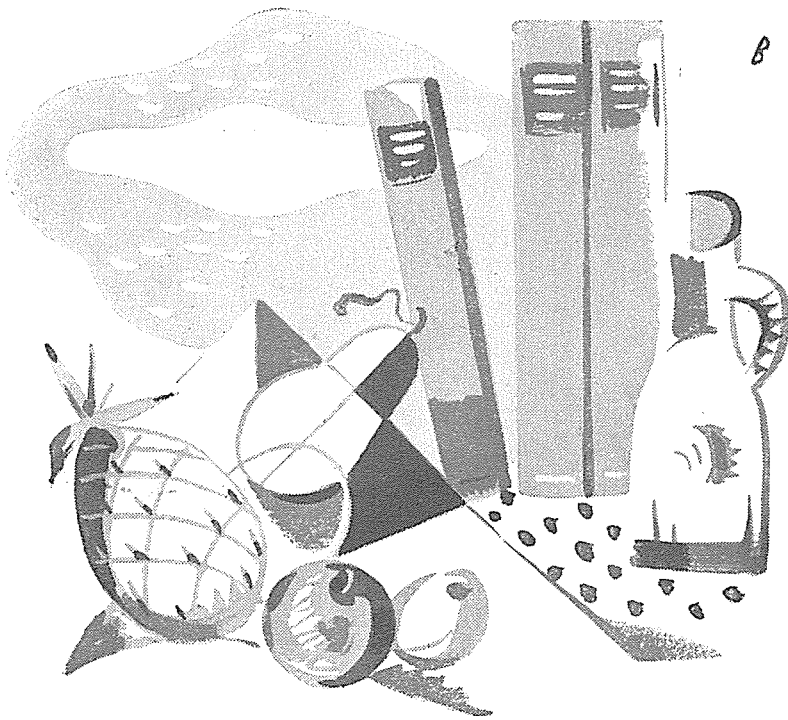


# 新西大學生報

第 六 十 六 號  
昭 和 十 四 年 二 月



關 西 大 學 學 報 局 發 行

好評

# 日本經濟と原料問題

豐崎稔 著  
牛尾眞造 著

◇戰爭經濟叢書 第七編◇

原料問題は現段階の世界經濟を起動する重大問題であるに拘らず、從來我が國に於て原料問題は等閑に附せられて來た。その結果として原料を基點として一方我が國民經濟は原料上國外に依存する他はなかつた。他方技術的にも同様の結果に陥つた。併しこの事實が漸く認識せられて日滿プロック經濟確立の要請となり、こゝに原料問題の緩急性は正確に我が國に於ても認識せられるに至つた。今や國民擧つて長期建設に邁進すべき秋、本書は我が國に於ける原料問題の重要性を更に明らかにせんとするものである。

頁〇一二 版合六四  
錢拾七 價定  
錢九 料送

## 戰爭經濟叢書

戰爭經濟研究會 監修  
豐崎稔 定價十七錢

- ◇ 戰爭と物價
- ◇ 戰爭と國家財政
- ◇ 工業動員論
- ◇ 戰時體制と貿易
- ◇ 戰爭と資本主義

好評

# 人口理論と國際貿易

小樽高商教授 南亮三郎 著

◇經濟特殊研究叢書 第四編

人口理論の新たな加工作業が現代的關心よりして何れか方向に果さるべきか一國の貿易政策は人口理論の枠内に於ていかに取扱はれ又それは一國人口扶食力の上にかに重大なる關係を有するものか、更に國際貿易の將來は特に我が國の立場から見て世界人口の趨勢といかに緊密に結びつけらるものであるか、等々の刻下喫緊の諸問題の解決を期してゐる。

頁〇〇五 製上版菊  
錢拾五圓參 價定  
錢貳 料送

經濟特殊研究叢書 第一編

◇矢内原忠雄著◇帝國主義下の印度◇ 定價貳圓五拾錢 送料拾四錢

經濟特殊研究叢書 第二編

◇正井敬次著◇金融論研究◇ 定價貳圓五拾錢 送料拾四錢

經濟特殊研究叢書 第五編

◇堀經夫著◇地代論史◇ 二月二十日發賣

商業特殊研究叢書 第一編

◇藤本幸太郎著◇海上保險特殊問題◇ 定價貳圓五拾錢 送料拾四錢

法律、經濟  
商業書類  
目錄進呈

大阪北區 振替大阪三一八九七二番  
梅田新道 電話北二六五三・五七五二番  
東京駿河臺 振替東京八一二三三番  
中央大學前 電話神田二二二二八番



株式會社

# 大同書院

# 英國民族觀と大陸境界

## 目次

英國民族觀と大陸境界

……………中村良之助 (一)

C・I・F 賣買と「通し」船荷證券の  
作成地點に就いて……賀屋俊雄 (五)

學内報…………… (七)

第三學期授業終了と卒業進級試験日割―法  
律經濟特別講義―日本文化講義―日本精神  
發揚週間―軍務公用者

校友…………… (八)

校友會支部成立―齊々哈爾支部―大連支部  
―台灣支部―五線會―KUS―會員消息

戰線だより…………… (三)

關大スポーツ…………… (四)

學會消息…………… (五)

學生…………… (五)

——ズデーテン問題が意味するもの——

教授 中村良之助

由來國際問題に就いて、其發生や關着の理由を兎角に「經濟問題」に結びつける傾向があつたが、今回のズデーテンに關する限り、夫れは理由として貧弱である。資源産業、貿易と所謂「儲かる」經濟問題にも非らざる而も第三國の大英帝國の老首相が自ら數次の會談折衝に勞を惜しまなかつた實情を我國人は何と解するか。

### 獨逸が

「太陽の下」て希望による赤道方面への發展途上に、英佛兩國と植民地再分割の難問題の横たはる事が、反對に英國をして偶々今回のズデーテンへのお世話即ち獨逸勢力の「ハケグチ」を東方へ利用したものと思ひ込むのは從來の技術外交の手續に目ざめない解釋であらう。此技術外交、經濟至上主義外交が大英國の没落其者と運命を共にしつつある事従つてズデーテン問題に際して英國の實利主義外交が最大難關に逢着したらう事に、故にこそ「お家」大事と老體をおしての數次の話合ひとなつた所を熟考せねばならないのである。

此問題に潜む新世紀への胚種―新世代への指導力は報導陣の止むと共に未だ「未現」の如く思はるるが、既に其發芽は豫定され歐洲の新體制は此處から實現して行く事を思はしめる。當時の報道には

「これが最後の獨逸の野心である」

との事が見られたが、果して然らば、愈々深重なる意

味を含むものである。理由は「英國の御やつかいになり、其の西歐的島國の境界觀念での話合ひ」

の限りでの事で換言すれば英國外交用語上に表現さるゝ最後の野心である。即ちイギリス的解決での最後の野心から獨逸的表現の最初に移るのである。

### 明敏且

つ多年「大陸政策」に慣れたる佛國は、既に早く此點を看破してゐる。夫れは問題が直接に身にかゝるラインの國境に非らざるを以ての安心のみでは無い。實に彼が其對獨大陸性情に對する地理觀について英國より一步徹底せると、其獨逸が採用せる東方境界觀念に就き佛國植民地觀が一脈共通する者があるからである。省みれば、其海外植民發展途上に佛英兩雄は如何な運路を經たるか。對アフリカ植民地觀は彼が最後に撰びたる又撰ばざるを得ざりし者。彼の共同化政策、文化政策には、地中海地縁と文化の類型を求むる事が基底となる。詳しくは一見類型ならざるが如き温帯から熱帯に亘る相互依存の文化圏の設定である。此處では英國流差別境界觀念は揚起されて佛國中心主義に還元され、其思想的克服が従つて獨逸の東方政策と其傾向を同じくするのである。

アンセルが佛國と獨逸との國境觀の論争に於いて「茲に於いて、國家に關して、否嚴密には Nation に就いて、東西（東邊即大陸的―西歐的）に二つの觀

念には深い差がある。」

と評してあるが正しく獨逸は東に向つて、イギリスには難解の或ひは未驗の理念を援用しつゝあるのである文字に書かれるステーション問題も要するに國家間に領土の「ヤリトリ」をした譯であり、故に

### 大戰後

にイギリスの作つた政治地圖の變更である。チエツコスロヴァキヤ在住三百五十萬の獨逸人の自決といふ申出は最早イギリス製の人種、民族境界からは逸脱した者、此處では目につく資源も産業も、貿易も論外である事は、勿論其イギリスが此觀念の差故に惱むバレストアインを引合ひに出されては「神妙」に退却せざるを得なんだ譯である。

イギリスが大戦後におしつけた「民族」自決主義の理論は敵方獨逸に有利でチエツコに「非理」となる。此因果の小事にイギリスはそゞろ國家前途の暗澹たるをおぼゆるであらう。

大戰後に見る民族自決主義に於ける「民族」なるものは社會發展史的過程の現象である點を極めて素朴にしか認めないから極めて固定的で、地圖上には不變に記入され、其境界は圖上におきさられ現實世界から或ひは歴史においてきほりを喰ふた譯である。

「民族は地方領域國家としての封建社會が其内部に發生した經濟社會の發展による社會分化から崩壊してその新しい要素の上に形成されるものである。それは封建的基本社會の土地經濟が崩壊し、これに代はる動産勢力の基本社會である。故にそれは發展した工業及び商業を持ち、其所産である商品の普通の流通範圍をそれ迄地理的領域の名稱であり又は觀念的に考へられてゐた一國に擴大したところに基礎を置いてゐる。かゝる意味で民族は近代の意味における一國生産共同體であるといふ事が出来る。」

加田博士著人種民族戰爭七一頁

イギリス民族國家の組成の理解は斯の如くであつて、これは現代獨逸のナチスの民族觀とは相容れぬ所は明らかである。

商品の普通の流通範圍を、換言すれば工業及び商業中心に對する農業圏との地域問題を英國は其版圖に適用するに就いて境界方面に、母國と植民地なるものへの法制的觀念の補強を必然に強請するに至らしむる。

日本的に其統治權限上の差別名稱たる植民地とは云へ現今の彼の自治植民地に於いて殘る母國の支配的法制的因子は遂に植民地貿易ののぞけば軍艦をつくるのみである。其「キング」に對する忠誠と英國的國民(British subjects)と稱するものは抑々何か。其聯合王國に對し、

アイルランド自由國に對し、南阿聯邦に對し、濠洲聯合に對し、印度に對し、クラウンコニーに對し法制的連繫の複雑さを以て各々所在の地表空間中に因由する凡ゆる要因を補強し代位し盡し得る事の不可能なる事は結局「自由主義通商の廢棄」に身を追ひ込むに至つたのである。吾人は此ブロック制經濟の封鎖の内にも

彼の境界觀念の依然たるを認めるのである。彼をして一度獨逸や佛國の如き内容的に大陸なる地位に國を置かしめんか、彼の包懷する法的組成に發源する植民地觀、並びに其觀念上の差別境界觀が正に文字通の法條文であり、空權なるを經驗する事は、既にアイルランドで又彼を眞似たる帝政ロシアのウラル境界觀の失敗に著明でもある。陸界特に大陸様相と其統一性は英國

流の境界に於いて求め得るものには無い。反對に大陸では境界は極限的排他的概念に非らずして、求心的綜合的對比概念である。一我大陸政策に就いて此點は深謀を要する。一様相統一に際する基本的なるものへの比較的選擇的區別觀であつて、此點に自由と個性は存

し故に、素朴に云へば境界感は一線を以て劃し得ない或統一されたものに關して空間的擴大の一單位であると稱し得る——話が稍理窟ツボクなつて來たので一廻轉をせやう。

兎に角、彼にとつての其「海外」(最感官的原緒的地圖上の區分)なる版土の自然優位の爲めに培はれたる絶對的(否先天的)差別觀は獨佛等大陸隣接民團には「不幸にも永久の範例」とは成り難い所がある。

### 換言す

すれば大陸側の(フランスでも)獨逸自身も個性に依るなれば、よしや批評はあらうとも其處に獨逸ナチスの民族觀の發生理由とレインデエトルを認めざるを得ないであらう。

大陸地表の統一性は何にまれ、斯かく鮮明に表現されるものでも無く、況んや法制的概念的に限界する事が如何に現實態勢を無視する所あるかを警戒せねばならぬ。故に歐洲の如きに群小國民族はともかく其民族の限界境界を設けんとする事の既に無理なるは明瞭であらう。此處ではリチャード・シヨルヌの觀察する「未だ判然たる境界を持たず大戰の後に解決を遅延せしめて」ゐるものであり此客觀的情勢に應じてジャーマン分子からまづ叫合しはじめる行動がナチスではないのか。此解釋は敢えて盟邦たるの辯とは限らぬ。此地域に就き、此事態を考ふるに伊國でも佛國でも其統一主義に不都合であらう事に異言はなからう。「小國が分離對抗するが故に歐洲の天地が惱む」とは等しく萬人の認むる所。然るに(英國流に)此程錯雜なる國家間に互つて更に見極め得ざる抽象的法的境界と國家の具體的行動限界を設け謂はゞ各々具體的行動の表外的越境部面に拘泥する所に愈々悩みは深むのである。然し

此大陸の小國分立現狀こそは白人中に英國の孤影を光

らしめるものでありひいて彼をしては世界に白人種代辯となり、そこに有色人種境界を設定する可能を握り得るのである。皮肉にも、ステーションに於いては英國民族観はナチス民族観に理由を譲り、其の

### 適用を

換言すれば、英國境界観の變更を暴露し彼の自己プロテクト辯護の題目たる「經濟的なる理由」と「植民地所有」の辨は獨逸の援用する所と化した。即ち其の獨乙の中歐に對する

「經濟生活上」商品の普通の流通範圍を、それまで地理的領域の名稱（中歐は現階段では獨逸から見ると稱し難いであらう）であり又は觀念的に考へられてゐた一國（ローマ時代のダニユブライン以東の如き又は大戦前のミツテルオイローバ思想バニゲルマニズムの如き）迄に基礎づけんとしてゐる」

のであるとは尠くとも英國の想定すべき所であり、當時の報道せる事實によれば「平和なる落着」を喜んだのである。

此英國觀に比して佛國觀が異なる事は一言せる所である。茲に詳述し得ないが碩學シアルジードは一九二二年植民地過有經濟の危險なるを警戒せしむる所があり、佛國では經濟個性と國家的關心を従つて植民地觀も明らかに英國と異にする所は各方面に見られる。其境界観は、歴史社會學、地理學に於いて看取し得る。

ブルーンの地理學、ブラッシュの地理學以下、シグフリード、フェブルに於ける地理觀には文化に、國家に、或ひは集團に、首都と領域交通が主題であり、求心的集成的概念構成の内に統一性と領域を求め、極限的分散的な統一性と漸移傾向を看取してこれに「境界」と求んとしてゐる。Zone differentiation である。むしろこれがその上に乗りかゝる植民法制の區別を決定するものであり、差別観は「交通」に因由するものと見

られる。ステーション問題も實は此「交通」經濟圏から燃焼し出しチエツコ民との差別観によつて猛炎と化した事は新聞の報道によつても明瞭である。

### さて吾

人は、從來の政治的民族主義に關連する民族觀を省慮し、其殆んどが英國の政國內に發生し、又夫れ故に東亞に傳はつた事並びに稀に英國圏外にありとするも彼が影に糸を引くか乃至は彼による觀念故に惹起した事を想起せねばならない。早い話が日支の事變も追々詮議立てれば残る問題は英國なのである。夫れと共に此の種の民族問題の紛争には一つの型を見得るであらう。即ち、民族對立乃至は英の唯我獨尊である。これ無くば云ふ所の彼の經濟商業的立國の民族は的國家の根本體系くづれる。故に他

の民族は常に孤立に止るべきで、彼には血や地の接續は其處では到底考へられぬ別個のものとするのである。自國移民による自治主義はかくて英國國民に容れられる法制至上主義の典型なのである自治—夫れも

### 高度の

の自治植民地の法的形態に於いてはじめて相互に人格—夫れも法的の人格が認められるので夫れでも一度經濟貿易面に至れば母國と永久に商工業に階級づけんと念のある事は彼のオッタワ會議に於いて暴露したる所で又去年の英米加の條約改正の際にも其心は發見し得るだらう。況んや印度に對し其他には人格は問題外である。彼の境界觀念は最初には「海外」と海内との自然單體的に、最後には抽象的法觀念に天上し、此處にコスモポリタンの見られ易い點が生じ、其普遍性面と法文言上に自由を唯一の對異民族武器とするのである。

此處で特に吾人の留意し度い事は、此「最初に海の内外なる」境界概念と植民地の政治的差別意圖が稍もすると日本の地形的類似から過信され勝な事である。貧弱なる經驗ではあるが私をしていはしむれば

「日本人は島國であつたが故、且つ徳川幕府の鎖國と封建制度に慣れたが爲めに（然し反面此爲めに極度に日本文化の個性と孤立が味はれるが）現代の如き世界情勢の轉換期には其情勢を見透す上から其民族觀移植民觀は往々に餘りに、統一、端正にすぎざる恨みが無いでもない」



チェツコスロヴァキア小年團のマスク運用練習

## 如何と

なれば其相手は何れも有史以來の人的民族的混亂をとかくわけ來つたいは、海千山千が多いのであるから。といつてもアジア民に對して、此英國流民族觀、境界觀は既記の如き點からおそらく適用の餘地が無いであらう事は大方想像されやう。今大英帝國の没する姿と源が此處にある事を反省せねばならぬ。英政府の法的偉力がこれ以上に印度に増加されるとは誰も思ふまい。アフリカに滔々と英本國民が移住する日は考へられず、況んやアジアに對しては、東亞に對するには別個の民族觀、境界觀が創造され適用されねばならぬ。我國歴史を通じて、對大陸觀を通覽するに、英國流の差別觀の發見は至難である。「各々所を得る」區別觀は凡ゆる要素と可能を包含し尙且つ其間に攝度を守らしめるもので

## 日文

化の偉大なる「包容力」を推進せしむるに就いて是を證明する餘裕は此處には無いが従つて不完全乍ら一例を擧げるに止める。

「前略然るに我奥羽及び古志等の諸洲、米穀を生ずる事夥しくて恒に食餘の腐朽するを憂ふ。食餘を移して（黒龍江流域或ひは樺太島へ）不贖を救ふは即ち産靈の法教なり。今此北州の餘米を運送して蝦夷國の諸港に積蓄へ、森青省と仙臺省より軍船と人數を出し夷蝦諸島に於いて水軍の戰法を操練し、且此人を以て漸々に唐太島の北境を開き、此地に越年せしめて能く寒地の風土に馴習はし、別に藩官及び伶俐なる商官等を遣はし彼國の土人と交易を通せしめ、厚く酒食を施して、土地の夷狄を悦ばし産靈の法教を説示して益々土人を教化歸服せしむ」

右は、佐藤信淵の大陸對策論の一部で我大陸觀が如何に恩と德義に依らんとしたかが視見され人種差別觀、

民族的排他觀念は全く觀念外といふよりは返つて相手に絶對的信賴をさへ現はしてゐる事から解されやう。「大いに恩惠を施し、利を與へ、物を惠んで多くの米穀を輸送し、交易と雖も、利分に拘はること無く、醇酒と美食を贈て彼土の居人を撫すべし。凡そ血氣あるものは、恩を喜んで德に歸せざることなし。況んや人類に於いておや」。

以上二句は大細野主義所載の田中徳五郎氏の文による。

現代人の特に最近の尊物的教養による者と雖も我國性を靜かに反省する時に否定し盡せぬ或者を感ぜられるであらう。

話は非常に餘談になつた様だが、此文言の底流に潜む民族觀、従つて大陸地域に對する我國土との地理的關係の認識に絆ふ所の境界觀を把握して且つ夫れが、ズデーテン問題に際しての、英獨兩政治家の交渉に從つて其結果としての問題の歸着に、現實具體問題としての「境界」とが如何にあるかを對照すれば此ズデーテン問題が從來とは範疇を異にして國際問題化した點を吾人は牢記したい。「一兵も血らずして」の獨逸の成功は、チエツコが弱かつたよりも「英國」を其思想的に往生せしめた所でありナチスの精神的氣魄がこれを強化した事を指摘したい。もとより

## 此氣魄

は科學的に、否概念的説明に至難だが、故に、獨逸國家態勢なり機構を記述せねばならぬが、夫れは外の記載物に依つて貰ひ度いと思ふ。

倍、此のズデーテン問題について私の云ふ特殊性に就いて今少し記述を深めやう。帝國主義のはじまつたと見らる一八八〇年此方國際問題に妙くとも土地の附帶するものにあつては悉く、所謂經濟的（英國流の産業貿易を主眼に政治支配を總括しての名稱）であつた

し、所謂植民地（國富増加が國家發展と同義に觀られる）問題であつたし、「其闘争」には必らず歐洲國家が介入してゐたと云つても過言では無い。比島の獨立に際しても米國提出の經濟問題の受容によつて比較的平穩に進捗しつあると見られる。換言すれば比島側が其提出諸條件を必らずしも英國並みに經濟的に評價せず換價せられざる精神上の「獨立」を考へるからでもある。今回のズデーテンの獨逸歸屬に際しても經濟評價を絶したるズデーテン住民の生活上の安全感を獨逸は強調してゐる。結果はもとより三百餘五十萬の勞働力と技術及び資源の減少がチエツコ國經濟問題となる事は明瞭であるし、夫れが獨逸經濟圏に入る事も明瞭である。ダニエーブ諸國に對して經濟的差別（農工商の抗爭關係）觀又は民族自決觀は英國の採り出すべくも餘りに其現實は懸絶してゐる。故に先にもオーストリーの併合も見送つた次第である。

米國ミネソタ大學のハートショルヌ教授の歐洲境界論は此處に參考とする所が多い。既記の如く彼は、此中歐に就いて數多の弱小民族が獨伊二大群の間に配されて「獨目的紛争」態様は政治的にも經濟的にも統一を遅延して次の境界問題を殘してゐると解し大戰後の民族自決主義の有害無用を主張してゐる。不幸にも往々にして、權力を弄する爲政者は勿論だが法律家、地理學、歴史學者で或種の誤謬を仗し勝ちである。といふのは「時世の推移」と爲政者は稱するがその者の内容と評價如何といふ事は現實態勢の要求と夫れに伴ふ満不滿が内容を決し評價を可能ならしめる事の理解如何である。即ち時世の推移は單なる「時間」では無い歴史の現在地位、換言すれば地理なのである。此處に推移が把握されるのである。此爲に私は次にズデーテンのエン・クラーフ。エキス・クラーフ、の問題を記述しやう。（未完）

# C・I・F・賣買と

## 「通し」船荷證券の作成地點に就いて

— Alfred Stevking 博士よりの書翰 —

教授 賀屋俊雄

一九二八年八月國際私法學會の手によつて制定されたC・I・F・契約に關する彼のワルソー規則第七條六項に於て、物品が「通し船荷證券」によつて運送せらるゝ場合にはその船荷證券は該物品の始發地點に於て(at the initial point of departure of the goods)作成さるゝことを要し、その運送全路に關するものであり物品の毀損引渡不履行に對してはその運送に關與したる各々の又はそのいづれの運送人に對しても法上求償權を保障するものたるべきことが規定されてある。

これに對し、一九三二年八月開催同學會オックスフォード會議の決定に係る所謂ワルソーオックスフォード規則は、北米合衆國を主とし大陸諸國側よりなされる各種の要求が參酌せられて若干の修正が行はれたのであるが、前記「通し船荷證券」に關しては、他の點は變更を見なかつたが船券作成地に關する

**場所的制限** はこれを削除したことが注目される即ち提供せらるべき「通し船荷證券」が運送全路に關するものであり、買主が有するに至るべき法上の救済に關して、いづれの運送業者に對しても求償權を保障するものである限り、其作成地點が物品の始發地點たらずと雖も、C・I・F・契約履行上有効と認めらるゝ

ことゝせられたのである。我國に於ても往々にして見らるゝが如く、中間港に於て作成されたる船券たとへば門司を起點として神戸に於て積替が行はれ紐育へ仕向けらるゝ荷物に對し神戸を發行地とする所謂

「通し」船荷證券にして、"From Moji to New York with transshipment at Kobe" 或は "From Moji to Kobe carried by s. 'Maru'" 等の摘要を附して發行さるゝものも有要件に合致する限りは新規則の下では有効なる提供として取り扱はるゝことゝなつたのである。

そもゝ舊規則に於て「通し船荷證券」が物品の始發地點に於て作成さるべく規定されたのは、二三英法上の判例に淵源する。その一つは一九一二年に於ける *Landauer & Co. v. Caren & Speising Bros.* 係争事件であり他の一つは一九二二年の *Hansson v. Hanel & Hortley Ltd.* の係争事件であつた。前者はマニラ麻の賣買に關するものであつて、比律賓マニラ港より倫敦へ仕向けらるべきC・I・F・賣買であつたが此賣買に於て、賣主は積替港たる香港に於て作成發行されたる香港／倫敦船荷證券に、マニラ倫敦間海上保險證券を添付して買主へ提供したのであつたが、かゝる提供

の有効性が問題となり提訴の結果、彼のスクラットンは約定期間内に倫敦仕向け運送締約不履行の存在と、船券上運送契約がマニラ香港間の運送契約を包含するものにあらずとの理由を以て賣主側の不利に歸せしめられたのであつた。後者は諸威國産魚製肥料六〇〇噸神戸又は横濱を仕向地とするC・I・F・賣買に關するものであつた。此契約履行に當り、賣主は諸威某港より地方航路船舶により獨國漢堡へ現品を送致せしめ、同港着の上これを某社某々丸へ積替へを行はしめ、同社漢堡代理店をして豫め自己との間になされたるの合意に基き、荷物の原始船積地たる諸威某港より日本に於ける最終仕向地に至る運送を包括するものとする所謂「Through Bill of Lading」の發行を行はしめ、これを買主へ提供したのであつたが、買主側の受諾拒否となつて提訴を見るに至つたものである。結局かゝる船荷證券は「船積の時」(On Shipment)に於て發行されたるものに屬せざるの理由よりして賣主側の敗訴に終つたのである。如斯英法の企圖するところは「船積時」に於て船券を作成せしむることにより自ら

**運送全路** に亘る買主側の有するに至るべき法上の救済を確保せしめんとするにあつて、畢竟買主側の利益擁護に出發したものであるは疑の餘地はなく、同時に表徴的引渡しを特徴とするC・I・F・賣買に於て證券の流通性別言すれば其商品性をして支障ならしめんとするの趣意に出でたことが看取出来るのである。然るに新規則に於ては他の點に於て變化なくたゞ船券作成地點に關する場所的制限のみを撤回した點は、從來英法上最も嚴格に固守されて來た「船積主義」の拋擲であり、あまりにも急角度の轉回として感ぜられ

るのである。しかし此修正は貿易實務の見地からは、却つて實際の要求に即した極めて適切な措置であつて、買主側並びに荷爲替取組みが行はるゝに際しては取組み銀行にとりてむしろ悦ばるべき結果を招來したものと考へらるゝのである。本來、英法が船積主義を固執したことは前述の如く、

### 證券の流通

性、従つて金融上の擔保性の確保にあるは明らかであるに拘らず此主義を一貫することは「通し船荷證券」の場合に於ては「受取式」船荷證券(Received for Shipment Bill of Lading)と實質的に變りなきものを必然的に流通せしむるが如き結果を見るのであつて、英法が原則的に拒否する主義とは矛盾する。然るに新規則の認むるところに従ふとすれば、買主側の享受する利益は前掲判例の場合に於けるが如く、地方航路船舶業者と仕向地へ直通する大洋航路船舶業者との連絡運送の場合には、買主は證券面に特定さるゝ船舶より確實に物品の引渡しを受け得る事となり、「船積」船荷證券(On Board Bill of Lading)の提供を受くると同様の安心が得らるゝのであり、荷爲替取組みに當る銀行業者にとりては地方的運送業者の發行する船券よりは、大洋航路船舶業者の發行する船荷證券に對し、より大なる金融上の擔保力を見出すべき理由の存し得るは暗なき道理である。

以上新舊規則に關しての優劣論は、筆者の管見に過ぎないのであるが新規則への修正理由が果して那邊に存在せしかに就いては、寡聞にして其眞想を探究し得なかつたによつて、筆者昨秋日獨文化協定調印直後の機會を捉へ、不悞とは思惟したのであるが、兼ねて、C・I・D・契約國際統一規則制定に親しく當られた一

人として知らるゝ彼の Alfred Steveling 博士に宛てて直接出狀、這般の修正理由に關しての示教を求めたのである。これに對して早くも年初、極めて懇切にしかも自筆を以て縷々説明された回答に接受することを得た。これによると博士は既に五年前實際業界より隱退して、ハンブルク郊外に悠々自適の餘生を送つて居らるゝものゝ如くであるが、一九二四年に於けるストックホルム會議より一九三三年のオックスフォード會議に至るまで終始 C・I・D・契約國際規則制定の任に當られたとのことであつて、特に筆者が指摘したところの通し船荷證券作成地點に關する修正は同博士の創意に出でたものであつたとのことで特に詳細に示教を得たことは、まさに『正しき扉を叩き』得たものであつたと筆者心竊に欣快を禁じ得ないものがある。


### 博士の説明

によると這般の修正は、西部獨乙工業地帯に於ける運送交通上の特殊事情に原因するものであつて、該地方、特にラインマイン河地方に於ける有力なる工業家のあるものは「通し船荷證券」の物品始發點に於ける作成の強要には異論を唱へるものが多々あつたので、その理由とするところは、該工業地方に於て海港への輸送は鐵路又は河川によるを常態とするものであり、河畔に沿つて蜿蜒櫛比する幾多工場所在地即ち物品の始發地點の各々に於て船荷證券を作成發行せしむることは、運送業者側に於ける業務上不可能事に屬する。従つて少なきは數時間甚だしきは數日間の運送を必要とする遠隔なる地點に存在する船舶業者の本據に於て正規船荷證券を作成せしむるより他に方途がないのである。しかし該地方に於ては運送業者が物品の

始發地點に溯りての運送上の責任を負擔するを肯んずることが慣例であり、茲に工業業者側の要求に妥當性が認めらるゝこととなり、新規則に於ける修正を見るに至つたものであるとのことである。即ち新規則への變更は賣主側に存する必要に應じたものであつた事がはじめて明瞭にされたのである。此事は嘗に北獨一地方に特殊なる慣習に對應するの措置たるに止らず、我國を中心とする海上賣買に對しても其實情に即するものであつて、滿蒙産物の對歐輸出に就いても同様の利便が感ぜらるゝのみならず、東亞新事態の伸展に従ひ支那與地物産の出廻りが愈々旺盛を加ふるであらうことは必定であり、これに伴つて生ずる長江筋河川運送の重要性を考慮に置く時は、新規則に於ける修正がますます其眞價を發揮するものとして認識されて來るであらう。

博士の書信をこゝに掲記公表するのが筆者の責であるが紙面の制限はこの事を許さぬのを遺憾とする。摺筆にあたり盟邦の老大家の國境を超えて示されたる床しき學者的なる眞情に對し、貴重なる紙面を塞いで心からなる感謝の意と深甚なる敬意を表明することを許されたい。(昭和十四年一月二十六日)

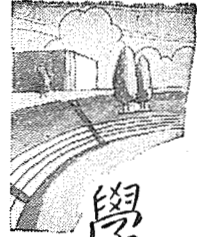
高級圖書專門



二十段家書

大坂市難波御前堂筋東入  
電話四七三三





# 學内報

## 第三學期授業終了と

### 卒業、進級試験日割

部 別	授業終了	試験期間
大學各學部第三學年	一月廿五日	自二月十三日至二月廿七日
同 第一、二學年	二月十日	自三月二日至三月十八日
大學豫科第一豫科三年	二月廿二日	自二月廿五日至三月四日
同 第二豫科二年	二月廿二日	自二月廿五日至三月四日
同 第一豫科一、二年	三月四日	自三月七日至三月十五日
同 第二豫科一、二年	三月四日	自三月七日至三月十五日
專門部第一、二學年	二月十四日	自二月廿三日至三月十日
專門部第二、三學年	一月卅一日	自二月六日至二月廿一日
同 第一、二學年	二月四日	自二月十五日至三月十日

### 法律經濟特別講義

法律經濟特別講義を天六學舎に於て左記の通り開講する。

期日 自二月五日 每日曜(十三日間) 自午後一時至四月卅日 每日曜(十三日間) 自午後五時

#### 講師及擔任學科

法博 山田 正三氏	民訴・破産	八時間
法博 宮本 英倫氏	刑法・刑訴	八時間
近藤 英吉氏	民法	八時間
法博 石田文次郎氏	民法	八時間
黒田 覺氏	憲法	八時間
大隅建一郎氏	商法	八時間
法博 神戸 正雄氏	財政	四時間

▽聴講者 本學卒業者並に在學者

### 日本文化講義

專門部第一部に於ける日本文化講義は一月十六日午後一時より講堂に於て、「日本魂」と題して文學博士吉澤義則氏の講演を開催した。

### 日本精神發揚週間

事變勃發第三年の紀元節を迎ふるに當り、神武天皇の御創業を偲び奉り、八紘一宇の精神の顯揚を中核として我が尊嚴なる國體、宏遠なる聲國の理想、日本文化の發揚に努め以て東亞新秩序の建設に邁進すべき國民の覺悟を固からしめる目的の下に設けられたる日本精神發揚週間に於ける本學の實施要綱は左の通りである。

期間 二月六日より同十一日まで午前七時半

行事 學部及豫科は千里山校庭に於て、專門部は長柄橋畔淀川公園に於て、皇居遙拜、國歌合唱、皇軍將兵の武運長久祈願默禱、建國體操、愛國行進曲齊唱

而して最終日の紀元節當日は學部及豫科は午前九時集合在井寺伊弉諾神社に參拜の後、十時四十分より、專門部は午前九時三十分より夫れ々、拜賀式を舉行する。

### がくほう抄

▽磯部喜一教授 一月十九日東京如水會館に於ける日本學術振興會學術部中小工業第二十三小委員會に出席した。

▽山田卯三郎講師 昭和四年以來專門部二部刑法各論擔任中のところ急性肺炎のため一月二十九日午前七時京都市中京區東洞院通押小路上ルの自宅に於て逝去された、享年四十五、告別式は二月五日京都山科佛教會館にて執行され本學より理事喜多村桂一郎氏外參列した。

▽和田 于一氏 本學元講師、大審院判事法學博士和田于一氏は昨年以來リウマチのため東京世田谷區成城町一三五の自宅で療養中のところ、一月三十一日午後二時逝去せられた、享年五十五

### 忠靈・塔 寄附

本學教職員學生徒に依り千里山學舎校庭に建設中の忠靈塔に對し、戦線上に活躍さる、學友校友勇士よりの尊き合力には、いたく感激させられてある次第であるが、今般更に左記の兩君より別項手紙に添へ建設基金として金五圓宛の寄附を受けた。

中支派遣軍齋藤(彌)部隊津田部隊小原隊本部

(專門部二部國漢二年在學) 富塚 豊君

北支派遣軍梅津部隊舟橋部隊氣付

原田部隊渡邊(博)部隊

(昭八專門部一部商科出身) 渡邊 博君

# 校 友

## 校友會支部成立

今般左の二支部が新に結成された

齊々哈爾支部 支部長 平尾縫太郎

副支部長 村上伊三雄

事務所 滿洲國齊々哈爾市市營住宅一〇八號、村

上伊三雄方

青島支部 幹事 木下林三郎 同 森原彌三郎

同 青木平藏

事務所 青島館陶路十二號朝鮮銀行青島支店內

下林三郎方

## 齊々哈爾支部創立總會

聖戰非常時下朔風卷き荒ぶ北滿齊々哈爾在住の校友は去る十二月十一日をトし、市内(天金)に於て校友會齊々哈爾支部發會式を舉行せり

先づ村上氏より齊々哈爾支部設置に至る迄の話ありて後會則を定め、支部長として平尾辯護士を推し、各事項は會員一致を以て可決北滿に於て力強く誕生をみたり、斯くて好姑娘のサーピスに酒盃を擧げ御歴々の隱藝に或は學生時代の回想談に大に飲み且談し、母校に支部萬歳を唱へ學歌を和し、意義ある發會式を閉じ零下二十度の戸外に出た時は、既に全市は煙界に閉され粗屋の酒場のネオンが寒空に淡く映へて居た。

支部長 平尾縫太郎 副支部長 村上伊三雄

## 大連支部

幹事 志岐五六 崎谷三郎  
事務所 滿洲國齊々哈爾市市營住宅一〇八號、村上伊三雄方

一月八日午後六時半より、小村公園内登瀛閣に於て待望の神戸學長を迎え、秀麗會第三十二回例會も兼ね歓迎會を開催す、開宴に先立ち先生を中心に記念撮影をなし、一同階上の滿洲的氣分の横溢した雅堂に圓卓を圍み、滿洲料理の出現を待構へる。

先づ秀島幹事立つて師弟の情誼濃やかき歡迎の辭を述べれば、神戸先生すつくと巨軀を衝立て、今回來連の件及母校の現狀並に先生の教學に對する御方針等について隨意なくお意志をお洩し下されたので、校友一同大いに意を強うし且つ心から満足した、滿洲料理を啄きながら母校を中心に種々と先生に質問し、又校友會として注文を露呈したりすれば、先生は始終ニコニコとして率直に意見を述べられ吾々をして母校への認識を深めしめられた。當日は新聞記事に依り馳付けた校友が四人もあつた事は我々をして實に感激せしめた校友全體が皆こんな氣持になつて、精神的に母校に校友會に團結した時にこそ、始めて關西大學は日本に滿洲に支那に否世界に不滅の光を放つものであらう。師弟が渾然一體となつて、實に和氣霽々裡に數刻を過し得た事は一層の希望と躍進とを期せしめられたる

## 昭和十三年中の執筆便覽補遺

本誌前號掲載に漏れたるもの中、現在判明の分を左にかかく

前借金契約について 西村 信雄  
シユツ「保證法について」 民商法雜誌七卷三、六號  
質貸借の保證について 法律時報十卷九號  
擔保の喪失減少と保證人の免責 民商法雜誌八卷五、六號  
日本公證人協會雜誌二二號

### 判例批評

質借人の保證人の責任 民商法雜誌七卷一號  
流抵當と代位辨濟 民商法雜誌七卷二號  
身元保證人の責任と相續 民商法雜誌七卷六號  
未成年者と債務承認 民商法雜誌八卷一號  
保證債務の消滅時效 民商法雜誌八卷三號  
銀行の合併と銀行員の身元保證 銀行論叢三二卷三號

方丈記 飯田 正一  
増鏡 大日本青年一卷十號  
大日本青年一卷十三號

吾が宗教教育 兒童教化一、二、三、五、六月號  
ものゝ見方 關大新聞八〇號  
大和魂、日本魂 月かげ誌六月號  
自淨其意 だん王八卷七號  
法身說法 大阪時事新報八月

## 軍務公用者(其の十一)

教職員  
下村 輝一氏 學生主事補(千里山學生課)  
久保田作平氏 生徒主事補(専門部學生課)  
卒業生  
森 清一君(昭四 専法) 萩原 佐友君(昭六 大經)  
松本 石翠君(昭八惠二經) 森 繁藏君(昭九 大經)

の感を深くした。午後九時半神戸先生の御健康を祈り一同立って學歌を高唱して散會す。

(出席者) 神戸學長、木本龜太郎、飯田昇、室山宇太郎、木村儀八、秀島全治、高木嘉一郎、川野勳男、岩本善三郎、赤井末政、結城丙太、賀來茂彦、萩原博、西本營兒、李鶴年、佐藤丈夫、辻菊雄、平井三朗

### 臺灣支部

臺灣支部總會は去る一月二十八日、景勝清泉の地臺北市郊外北投の新元紀念館に於て開催したが、此の總會には目下來臺中の烏賀陽然良先生の御出席を賜りたことは本總會を一層意義あらしめた、總會は支部長缺員の爲、幹事長之を主宰し行事報告の後、會計幹事會計報告を爲し、續いて支部長の推薦役員の改選に移り満場一致を以て中村八十一氏推薦せられ、其の他の役員は支部長の指名に依り、幹事長及會計幹事は留任し庶務幹事は新任せられた、斯くて總會を終了し引續き懇親宴に移り、烏賀陽先生を中心として懷舊談に花を咲かせ、午後十一時和氣瀟々裡に散會した

支部長 中村八十一 幹事長 喜多末吉  
會計幹事 門田文三 庶務幹事 重田政次  
支部事務所 臺北市千歲町一ノ三七、中村八十一方  
出席者 中村八十一、眞田松雄、山口正成、喜多末吉、門田文三、重田政次、中村進、小谷茂雄、内村一穂、關千唐、伊集院賢

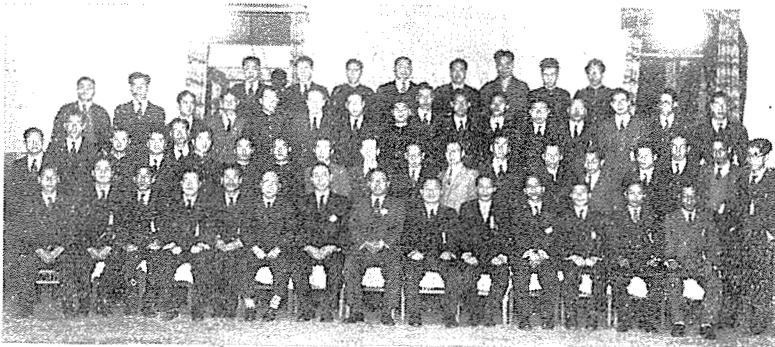
### 關大五緣會

昭和五年大學部卒業同窓より成る關大五緣會の新年總會は昭和十四年一月二十五日午後六時より南區日本橋北詰ラヂル館内に於て開催、戦勝の新年を壽ぎ久し

振りなる學生氣分に若送り友情中心主義の極めて和やかなる楽しい一夕を過ごし互の舊交を温めて九時頃散會した、當日出席者十七名であつた。幹事鈴木武夫報

### 大阪遞信局KUS會

十一月二十八日本年度秋季總會を兼ね創立十周年祝賀式を遞信局本館高等食堂に於て開催す、出席者六十餘名元本會々員にして在京阪



創立當時の昔を偲び互に胸襟を開き歡談盡くる處を知らず最後に出席者一同に記念品を贈呈し萬歳三唱盛大裡に散會す。  
因に本會は現會長阿部正一氏外數氏の發起に依り昭和三年七月會員十數名を以て創立今日に至る。現在會員七〇名(延一五〇名)  
出席者(順次不同) 今井、福原、瓜田

田坂 敏夫君(昭九 大法) 永井 政次君(昭九 大法)  
新本 龍夫君(昭一〇 專一 經田村 孝君(昭一一 專二 法)  
大田 義章君(昭一二 專一 法山口 清君(昭一二 專二 法)  
土井 義明君(昭一二 專二 法井口 卯平君(昭一三 專二 法)

### 在學生

寺尾 愈 (專一 法三) 荻谷 辰男 (專一 經一)  
逢坂 敬一 (專一 法三) 坂本 功 (專二 法三)  
伊藤 清志 (專二 法三) 内山 直 (專一 法三)  
藤本 尚平 (專二 法二) 堀之内吉助 (專二 法二)  
山崎 正己 (專二 法二) 藤原勝比古 (專二 法二)  
友田 孝治 (專二 法二) 田中耕三郎 (專二 法二)  
中元 繁治 (專二 法二) 下城 秋男 (專二 法二)  
石川 勉 (專二 法二) 今村龜三郎 (專二 經三)  
井上 勇 (專二 經二) 荒木 正紀 (專二 商三)  
井之口 猛 (專二 商二) 水口 一夫 (專一 商二)  
吉井茂一郎 (專二 商二) 中野彌一郎 (專二 商二)  
廣瀬 一夫 (專二 英二) 仁藤 金正 (專二 英二)  
金井 稔 (專二 商二)

### 戦死

金山 慈式氏(昭一二 大哲) 昭和十三年十月三十日、山  
西省永濟縣東伍姓に於て名譽の戦死  
遺族は堺市柳之町東二丁一九、父金山慈政氏  
坪木 六郎氏(專二 法二) 昭和十三年九月十二日、名  
譽の戦死  
川西惣太郎氏(專二 法二) 昭和十三年大別山戦闘にて  
名譽の戦死

### 戦傷

岡田 好一氏(昭一一 專四) 助川部隊に屬し無錫の戦闘  
に昭和十二年十一月十六日名譽の戦傷を負ひ、現在  
奈良陸軍病院七號ノ南室にて療養中  
渡邊 満雄氏(專二 法二) 昭和十三年十月二十七日、  
河南省野戦病院にて名譽の戦病死  
河合 徳氏(專二 法二) 昭和十三年十一月二十日、  
名譽の戦死

藤田(正)、濱路、柿原、北村(學)、山井、佐藤、伊賀崎、山根、渡邊、藤田政、武藤、杉原、八木、阿部、大野、北村(實)、竹内、島田、芳村、矢野、菅沼、大西(明)、門脇、大西(松)、松本(重)、萩原、高輪、藤谷、清水、高階、三木、服部、井上、遠藤、萩野、白井、仁木、土屋、眞木、田中、稻森、三宅、中筋、江指、西崎、西井、長谷、河北、吾我部、紀戸(茶實)、井上正臣、阿部甚吉、林武彦、安井章吾

### 會員消息

村川 保藏君(明三七 法) 住所は北京城内黃米胡同甲七號村川公館  
吉川孝太郎君(明三八專法) 住所は東淀川區豐崎東通四ノ二八  
島羽源四郎君(明四五專法) 今般、布施市財務課長に就任せらる

齊藤佐一郎君(大六 專法) 大正化學工業會社取締役社長、成和土地會社取締役  
横井 吉藏君(大一一專經) 住所は東京市芝區高輪南町三〇  
武方寅之進君(大二專法) 「鳥蘇里の河も氷結し、陸

續き同様のソ聯を前に毎日頑健に勤務致し居り候五族の協和、大亞細亞建設の爲めに凡有不便を堪え忍び其の守りを遺憾なく果し居り候一ヶ月以上かゝる音信も殊の外なつかしく早天の慈雨の如きものにて候」満ノ國境なる三江省饒河縣東安鎮警察署長たる氏よりの近信

宮崎 久樹君(大一二專商) 住友銀行門司支店より同行福岡支店(下土居町)に轉勤、住所は福岡市六月田町一〇五

小川 言五君(大二三專法) 臺灣專賣局煙草工場より同局嘉義支局に轉勤

富田 英雄君(大一四專經) 維新政府宣傳局顧問として活躍の由、住所は上海施高塔路三十二號

秀島 全治君(大一四專商) 大連市千歲町三八に移轉

佐藤 瀧治君(昭二 專經) 國光紡績會社青島支店(青島市外滄口)工務主任として在勤

福部 章君(昭三 大法) 住所は東京市江戸川區小岩町三ノ一六五六

山田 實君(昭三 專法) 鐘紡天津サビステーションヨシより同社太原サビステーション次長として轉勤、留守宅は西淀川區大仁本町二丁目

葛原 三三君(昭四 大法) 陸軍主計中尉として青森縣上北郡三本木町軍馬補充部三本木支部に在勤

丸山喜三造君(昭四 專法) 住所は東成區東小橋南之町三ノ八五

木下四十吉君(昭四 專法) 日本銀行熊本支店に勤務、住所は熊本市船場町

早川 靜馬君(昭四 專法) 滿洲國特許發明局より滿洲鑛業開發會社に轉勤

沖 正一郎君(昭四 專法) ラサ工業會社本社より同社田川鑛業所(山形縣西田川郡温海村五十川)に轉勤

高橋 大善君(昭五二大專) 築港高野山副住職なる同君は昨年五月單身、本山金剛峯寺派遣從軍僧として

渡蒙、内蒙各地の廟を巡歴し古義員音宗留學生の名に蒙古歸化城に踏み止り、蒙古民族の狀態を具さに視察しひとまづこの程歸還した

梶 關市君(昭五 大法) 警視廳特高警察部外事課亞細亞係に勤務、住所は東京市淀橋區戸塚町二ノ四(谷津通) 糟三君(昭五 專經) 大阪市水道部より本廳庶務部町會係に轉勤

岩本壽三郎君(昭六 大法) 關東州廳土木部計課課に勤務、住所は大連市千草町六三官舎

赤井 末政君(昭六 大法) 大阪市電氣局車輛工場を辭し滿洲車輛會社大連駐在事務所(大連市東公園町技術會館一階)に勤務

三谷 久男君(昭六 大法) 警部補、天満署より鶴橋署(轉勤)

田中 佐友君(昭六 大法) 本學千里山教務課に勤務

西田 元三君(昭六 大法) 尼崎市湖江前田六に移轉

小西 頼人君(昭六 大法) 住所は鳥取市片原町三丁目清水辨二郎君(昭六 專法) 日本生命清州出張所長、住所は朝鮮忠清北道清州邑本町四丁目

坂田 孝君(昭六 專法) 住所は神戸市灘區赤坂通五丁目六ノ二三

白井 正實君(昭六 專法) 辯護士、野村ビル内岡本尚一法律事務所、住所は布施市東足代一八一

津川 鑑一君(昭六 專經) 中河内郡矢田村住道七六八に移轉

加來 茂彦君(昭六 專商) 滿鐵消費組合(大連市西公園町)に勤務

武氏 英二君(昭七 大法) 直輸入商を西區新町南通

三ノ三四・三五にて經營、住所は住吉區住吉町二  
一九五

今村 茂君(昭七 大法) 滿洲鑛山會社より東邊道開

發會社(新京大同大街四〇六號)に轉出

菊地 一男君(昭七 專法) 警部に昇進、大阪府警務課

より天満署主任警部に轉ぜらる。

辛 環 奎君(昭七 專法) 東洋紡織會社京城工場に勤

務、住所は京城府堂山町三五三〇二一

◇

木村 定雄君(昭八 大法) 兵庫縣武庫郡住吉村柳七六

七に移轉

井上 文雄君(昭八 大法) 陸軍主計中尉、陸軍經理學

校を卒(第四師團計理部に勤務)

西木 營兒君(昭八 大商) 三井物産會社大連支店より

同社埠頭事務所(富久町一〇)に轉勤、住所は大

連市久方町一〇丙ノ二號

大田 義三君(昭八 專一法) 臺灣總督府專賣局鹽騰課よ

り同局神戸出張所(神戸市葺合區雲井通四丁目)

小幡 俊次君(昭八 專一法) 愛國生命大阪支店より東京

本社契約課に轉勤、住所は東京市世田谷區北澤五

ノ七三八・小池徳次郎氏方

◇

早川源四郎君(昭九 大法) 住所は大連市若松町二七

光井 章雄君(昭九 大商) 新京平泉路五一七滿炭社宅

七〇號に轉居

辻 菊雄君(昭九 專一法) 福岡縣產業獎勵館(大連市

連鎮街)に勤務

松田徳二郎君(昭九 專一法) 住所は西區區橋道二ノ一

福居 順一君(昭九 專一法) 東京市江戸川區小岩町三ノ

一九五一に移轉

森谷 克己君(昭九 專一商) 八幡製鐵所工務部土木課水

道掛を辭し奉天辛島機務所北京出張所(北京關方

胡同南半壁街甲五號)に勤務

蓮井 敏雄君(昭九 專一法) 北支派遣軍杉山部隊參謀部

新宣撫官となり二月五日内地出發

長崎 孝紀君(昭九 專一法) 北區都島南通三ノ二に移轉

岡野 一隆君(昭九 專一法) 野村銀行調査課に勤務中、

住所は住吉區昭和町五ノ二

松下 克己君(昭九 專一法) 商工省大阪工業試驗所を辭

し大日本メリヤス製造工業組合聯合會に勤務、住

所は東淀川區中津濱通五ノ二八

◇

森田 卓之君(昭一〇 大商) 住所は旭區森小路五ノ二四

藤田 只勝君(昭一〇 大商) 住所は兵庫縣武庫

郡大庄村南川端六七八

木下 春俊君(昭一〇 專一法) 熊本歩兵第十三

聯隊補充隊第二中隊第一班に入營

中岡 保君(昭一〇 專一法) 篠山米山部隊第

三機關銃中隊第二班に入營

玉置 直忠君(昭一〇 專一法) 大阪府社會事業

會館(天王寺區伶人町)に勤務

福尾 好雄君(昭一〇 專一商) 日本通運會社廣

島支部(廣島市西蟹屋町三〇ノ二)に勤務

坂口 巧君(昭一〇 專一商) 住所は豊中市上

野一四二ノ一、片岡氏方

加根始太郎君(昭一〇 專一商) 住所は堺市中之町東一丁

目二六に移轉

藤野 勝彌君(昭一〇 專一商) 住所は天王寺區眞法院町

三四

◇

吉村 善治君(昭一二 專一法) 大阪府警察部特別隊より

陸軍特別志願將校として京都伏見小林隊に入隊、

砲兵少尉として二月二十四日より三重縣立松坂高

業學校に服務

富永 唯雄君(昭一二 專一法) 兵庫縣武庫郡御影町濱中

三七八ノ四に移轉

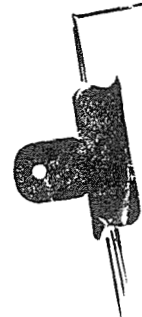
梶田 三雄君(昭一三 大法) このほど改姓、住所は三重

縣一志郡八知村九六

三田村琢美君(昭一三 大法) 入營、通信先は福井縣今立

郡新横江村下新庄

濃い、鮮やかなインキです  
書き染えのするインキです



用筆年万  
キンイ  
ーナグワ



北 陸 夫 君 上

## 戦線だより

昭六大法 村田定市

(前巻)御承知の○支作戦に参加し其の任務を終へ、再び○支の空に歸つて参りました、南支に居る時は○月中旬から下旬にかけて炎熱百度も越える亞熱帯地方を行軍に行軍を重ね遂に南支の首都○を攻畧暫く守備に就いて居りました。(中略)

自分等の宿營してゐた家の主婦は日本女子大を出て女師範の校長をしてゐたと中央公論とか教育學に關する書籍が澤山ありました。民法とか民訴に關する本も見ましたが支那も法治國として其基礎は相當出來てゐたものと感心しました。(下巻)

北支派遣軍今村兵團長野部隊平野部隊頼澤隊

昭六大法 萩原佐友

(前巻)お蔭を以て海上も無事に○上陸只今○に滞在待機して居ります、近日中に奥地へ出發の豫定であります(下巻)十二月二十二日

中支派遣德川部隊戸塚部隊主計少尉萩原佐友

## 昭八事一商 渡邊博

征戰既に一年餘 南船北馬幾山河  
月光呀ゆる臨汾城 再び迎ふ聖戰の春  
祖國を離れて早や一星霜こゝ山西の山野にも再び黃  
褐色を呈し、青一色を止めず山又山を縫ふ汾河の泥流  
も凍結して了ふ。北は大同、雁門關の峻險、南は蒲州  
風陵渡、黄河を臨んで潼關の敵陣に對する南北數百料  
に亘る山西省も今や皇軍の到らざる所なく山西共產軍  
の根據五台の要塞も粉碎され、關錫山も遂に山西を棄  
て、氣息奄々たり。五台山は弘法大師修行の地にて、  
大師の遺跡は所々に存し、同地方には佛教徒多く、民  
家に「南無阿彌陀佛」の貼紙が目を惹く。

山西は鑛産に富み天然鹽、工業原料は各所に産出する  
情況なるも未だ十分開發されるに至らず、資源調査  
中なれば將來の發展は見るべきものあらん。

大原附近には稍や工業の發達を見るも最近數ヶ年の  
事にて關錫山外資を以て優秀なる機械を設備し大軍需  
工場を實現せんとした事も未完成に終りたる事は我軍  
にとり幸ひな事である。關錫山の炯眼は山間の各地に  
アカシヤ、楊柳の並木を植樹したる立派な軍用道路を  
廻らし各地に在駐する兵營に連絡する、今日この道路  
が彼の退路ともなり又我が軍の有用な兵站道及追擊路  
ともなれるは皮肉なり。山岳地帯の所々には石炭、鐵  
鑛脈の露出が見受けられると云ふ。又南部の運城附近  
には東西六里南北二里に亘る大鹽池あり、凡ゆる工業  
原料となる天然鹽が安價に原始的な方法で生産される  
關錫山の私有財産の數百萬圓は之に依り維持せられて  
ゐたと云はれる、この鹽地を巡つて匪賊、敗殘兵の眺  
梁甚しい。(中略)

小官○○の名の部下を指揮して北支に轉戦すること  
一ヶ年、此の間愉快な事もあり又辛苦を重ね、敵軍を  
浴び、中には勇敢に敵軍を追撃して五名を刺殺、兵器  
を分捕つて来た特務兵もあり、重要物件を護送中夜襲  
を受け重傷に屈せず責任を全ふして壯烈な戦死を遂げ  
た兵あり、小官又○○に於て手榴彈の洗禮を右手に受  
け自由を失ふも傷癒えて再び前線に健在なり、

當隊郷土の先輩戦友の偉勳を偲びて「赤鬮隊」と  
命名し赤血を以て白骨を彩り倒れて尙止まず七生報國  
赤心の誠の精神を表現し、赤鬮隊旗の下に忠誠を誓ひ  
粉骨邁進してゐます。東亞永遠の平和と長期建設を目  
指す今次の聖戦は銃後國民の誠心と相俟つて皇恩の萬  
分の一に酬ひ奉る覺悟です。昭和十四年の新春を戦場  
に迎ふるに當り山西の景況を報じ學友諸兄に呈す。

小官同期生及先輩學友中今次事變に多くの戦死者を  
出し、母校に忠靈塔建設の義舉を聞く、大賛意を唱ふ  
るもの、別送軍事爲替にて僅少なれども建設基金の一  
助ともなれば幸甚、謹みて戦死者英靈の冥福を祈る次  
第なり、山西○○にて

北支派遣軍梅津部隊舟橋部隊氣付

原田部隊渡邊(博)部隊

昭一〇專圖 後藤速雄

(前巻)私も○○にて元氣で軍務に勵んで居ります、  
この支那も内地と少しも變つた気分は致しません、山  
にしる、川にしる同じ事です、たゞ飛行機爆撃の跡は  
まぎ／＼と激戦の状を物語つてゐます(後巻)

中支派遣軍松浦部隊飯野部隊落合隊木田隊

昭十二天法 高松 有爲

(前畧)お蔭を以て戦地で洵に意義深い新春を迎へる事が出来ました、益々元氣で軍務に服して居ります、聖戦も早や一年有半愈々自顧自重以て皇國の爲め大いに勇往邁進御奉公すべき秋と力強く感ずる次第であります(後畧) 一月十三日

北支派遣軍奉部隊氣付植松部隊本部岡本隊

昭一二三二商 藤井 霽司

戦捷の新春御同慶の至に存じ候、征途に上つて以來八ヶ月其の間統後の皆様の熱誠なる激動の辭と御慰問を賜はり深く感銘致し居り候、今し東洋平和の聖戦に参加し得たる光榮を自覺しつゝ一意盡忠報國の赤誠を誓ひ居り候(下畧)

北支派遣軍阿南部隊氣付黒澤部隊薄井隊

昭一二三二法 大田 敬一

○支より○支へと轉じ、只今では京漢線沿線○縣城にあり、警備に従ひて居ります、曠野の中に立ち母校の發展と校友各位の健在を祈つて止みません(後畧)

北支派遣軍後塚部隊大田部隊森下隊

專門部二部法科三年 逢坂 敬一

(前畧)戦捷に輝く二五九九年を迎へられた事を遙に異境よりお喜び申上げます。不肖出征以來一年有餘、國防の第一線に於て至極元氣に精進致して居ります、昨今は零下三十度内外、連日雪と氷に暮れ、執る銃にも氷の花が咲きました、當初額一面にツラ、のつたつたには驚きました、今では寒さにも馴れ至極元氣でやつてゐます(後畧)

滿洲國牡丹江省虎林縣虎頭越智部隊勝瀨隊

專門部二部法科一年 原 豊

(前畧)去月下旬南支バイアス灣に敵前上陸致し前途を遮る黃塵と内地の眞夏を彷彿させる酷暑と尙も蠢動し來る敵兵の襲撃も難なく退け、敵兵の屍と馬の殘骸を踏み分けて八十里を突破今や堂々皇軍の武威を發揮せる廣東を離れる事○里の處に居りますが至極元氣一杯に奉公致して居ります(後畧)

南支派遣三宅部隊書函第十號本部

專門部二部商科一年 門野 敏雄

(前畧)出征以來將に足掛け三年、北支同胞益々元氣旺盛にして長期戦役等恐るゝに足らずの感有之候、新聞に依れば内地の緊張振り實に目覺しく國家の下に統制され公私共戦時經濟の確立に愛國の至誠を發揚せられ銃後後援の限りなき美譽は枚舉に暇あらずに國威伸張に御努力せらるゝは實に涙ぐまじき限りと戦地在る我等一同感激に堪えず候(中畧)

現在揚子江は外國船の遡江を禁じ居り従つて一般住民は物資の供給不足を告げ蔣政權の誤れる政策は支那大衆の生活困難を來さしめ、遂には蔣介石を見切るの舉に出に皇軍の占領治安の確保に役立つの外何等累を及ぼさざるの結果と相成候、産業は幼稚にして大いに改良の餘地あり、産業に文化に今後大いに指導善導するの要あり、今後の發展可能性は充分期待して可なりと感じ申候(後畧)

中支派遣軍片村部隊井上部隊浮田隊

專門部英語科三年 藤岡 英輔

(前畧)私の部隊は第一線に糧秣を輸送し任務遂行に努めて居ります、先月は○部隊の作戦に参加最前線に進出、敵の砲彈雨下に夜を徹した事もありましたが猛攻又猛攻敵を黃河以西に潰走せしめて所期の成果を収め、私達の部隊も再び○陽に歸還引續き第一線に銳意糧秣を輸送して居ります、併し一陣連天の河北と遼ひ山嶽重疊の山西は敵の常套手段たる遊撃戦法に適し地理に明るきと地形を利用して執拗にも我等の補給線を屢々脅かし寸時も油斷出来ません。陣中事變の長久性を泌々感じ今後一層奮勵努力長期建設に向つて突進し銃後皆様の燃ゆるが如き熱誠にお應へする覺悟です、

北支派遣軍山岡部隊緒方部隊江尻隊本部

專門部國漢科二年 富塚 豊

(前畧)相變らず硝煙彈雨下に在つて元氣一杯御奉公仕居候間何卒御休心被下度候、扱て承れば此度學園内に於て忠靈塔建立の議有之候由拜聞洵に結構なる御企てと陸作らその實現の速かならん事を祈居候處最近學報によれば着々その準備も遂行され各方面よりの後援も抄々しく御同慶に不堪(中略)

せめても心遣りにと甚だ僅少には御座候にども御送金申上候間御受納の上建立費の一部に御充當被下候は幸甚と存候、八月以來懸念致居候へども何分此の方面の激戦に次ぐ激戦、進撃に遂ぐ進撃にて手紙さへ發信を許されぬ状態に有之野戰郵便局の設置も不可能の有様最近漸く設置されたる模様なれど十數里を隔てたる山間の僻地に吾々は位置し到底其處に至るを許されぬ状態、それが爲本日迄心ならずも延引仕居候處最近經理係に於て母國宛送金取纏め便宜相圖らるゝ趣幸ひ之に托し置候(後畧)

中支派遣軍齋藤彌部隊津田部隊小原隊本部

# 關大スポーツ...

## フエンシング部

十一月二十日、國民精神作興體育大會  
關西大會開會式に於ては、畏くも秩父宮  
殿下より御下賜の大日章旗の名譽ある衛  
手として我部より八尾壯比古出場

十一月二十三日、甲子園室内競技場に  
開催の同體育大會フエンシング戦に出場  
す、先づフルール戦に於ては谷木、八尾  
溝淵、第一回戦に勝、第二回戦僅少の差  
を以て敗れ、溝淵のみ準決勝戦に入る。

而して大阪YMCAベテラン龜谷との一  
戦に善戦せしも最後の突に敗る、エッ  
ペ戦にては植田、八尾準々戦に於て討死  
し、サーベル戦に於ては木村軽く優勝の  
榮冠を獲得す

十二月三日、對明治大學第一回定期戦  
を大阪YMCA體育館にて開始す

- フルール戦
- 關大 14 V・S 2 明大 (關大)
- ⑤木村 V・S 2 波多野 (關大)
- ⑤中垣 V・S 4 金用
- 3 植田 V・S ⑤赤塚
- ⑤谷木 V・S 4 田崎
- ⑤溝淵 V・S 3 木村

- (主將) ⑤田中 V・S 1 藤井
- エッペ戦
- 關大 4 V・S 2 明大 (關大)
- ③植田 V・S 2 金(昌)
- 1 溝淵 V・S ④福田(主將)
- ③八尾 V・S 2 赤塚
- サーベル戦 三戦一勝二敗

第一回定期戦はサーベル戦に一敗した  
るのみにて、關東の雄明治大學に大勝し  
たる因は、實に主將田中君指導の下に寒  
風肌を晒し日も、熱汗溢れる日も懸命に  
練習した賜である。

## 馬術部

一月廿八九の兩日、騎兵第四聯隊にて  
第七回全關西學生馬術爭鬪戦が舉行され  
今回は特に部員の都合にて四名制部班に  
出場せるも、既に二年連続優勝せる本學  
は廣谷主將以下三名の聯盟選手を有する  
強力チームを以て三連覇の偉業を完成す  
べく、二回戦先づ和歌山高商を軽く一蹴  
し、次で准優勝神戸高商に快勝し、遂に  
優勝戦に駒を進めしが安藤、中里不運の

敗戦に三連覇惜しくも止む(減點法)

- 二回戦 關大65-184 和商高  
(關大) (馬) (和歌山高商)
- 安藤-57 献泉 -26 久保田○
- 齋藤-0 藤雲 -8 久米
- 中里-2 天城 -75 川口
- 廣谷-2 鹽田 -75 高橋

準優勝戦 關大61-64 神高商

- (關大) (馬) (神戸高商)
- 安藤-2 標樂 -0 倉田○
- 齋藤-0 勝秋 -2 十合
- 中里-7 秋舟 -2 高原○
- 廣谷-52 勝久 -60 今井
- 優勝戦 大外語29-71 關大

- (關大) (馬) (大阪外語)
- 安藤-42 杉光 -1 池○
- 齋藤-3 劍龍 -7 櫻見
- 中里-25 膽菊 -8 本田○
- 廣谷-1 川玉 -13 齋藤

## 弓道部 (専門部一部)

一月二十九日市岡中學弓道大會に於て  
森續禎次君は斯界の猛者連に交つてよく  
戦ひ十射八中の成績で三等に入賞、萬丈  
の氣を吐く。尙本年度役員は左の如し  
主將、齋藤三郎、副主將、竹内康夫  
會計、安原茂定 委員、森續禎次

## 劍道部 (専門部一部)

銃後學生の責務として出征者の勞苦を  
偲び、一月十二日より一週間毎日早朝七  
時より八時まで寒稽古を開催した

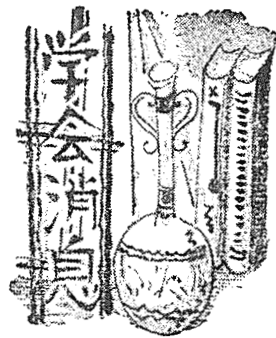
## 山岳部 (専門部二部)

舊臘廿日より一月四日迄、信州志賀高  
原にて合宿し、丸池、熊之湯及び横手山  
頂上附近に於て、スキーの猛練習を行ふ  
(參加者) 補山、塚越、金峯、山本、  
千田、木村、棧敷

## 俳句部 (専門部一部)

昭和十四年一月十四日(水)  
長柄園分寺に今年度最初の例會開催  
當日部員代表句左の通り  
山高の娘  
梅の身のまぶし瀬降をとりこぼつ  
安藤みちを  
氷雨の夜冷たきカレーと食ふ  
笠原國雄  
青き子は姫を覺へぬ小さき眼に  
堀居潤子  
友の來て英字新聞燃せる筈  
薄 晩秋  
我老ひぬ虫眼鏡メニューを撥がする  
森田孤村  
他に松浦、船曳出席、持句無し。





## 商學會

更生未だ一年に達せず、之がための若さ、と之がための緊張、とは激潮の意氣と強固なる團結とを吾等に招來せり、  
飽迄も頑張る！ 之こそ吾商學會の心なれ。

### 一、商工實務研究部

先般十二月上旬、廣告心理の實踐的研究の第一歩として、本學豫科全生徒を煩はし、齒磨、石鹼、足袋、萬年筆、頭髮用ポマード、化粧用クリーム、消化劑、日本酒、葡萄酒、雜誌及び新聞紙の十一商品につき、その知れるだけの商品名十箇迄と、その現在使用中及び嘗て使用せし、の商品名とを約十五分間にて質問紙に應答せしめ、その調査を完了し、現在使用中の商品名につきましては新聞部に報告せり、而して新學期には再び斯道の權威小川忠藏講師を煩はし、之の結果につき御批判を藏く豫定なり

### 一、經營學研究部

既に完了せる尼崎商店街第一次構成調査の後を追ひ、第二次經營及び金融調査を二月五日午前九時より折柄の氷雨を衝いて決行せり、  
而も今回の調査たるや三年生會員の不參加に因り前回の調査より八名の減員に不拘、その結果は遙に前回を凌ぐ好成績にて終了したり、又調査途中にて大毎その他の新聞社記者より質問を受け、この調査の重大性を感得せり、  
この調査の結果は來る新學期に發表の管。

## 商業研究會

十二月十日、午後三時より第二回經濟講演會を三十八教室に開催する。  
演題「時局下の中小商業者問題」  
講師 大阪商工會議所主任 加古撤次郎氏

氏は斯界の權威者にして熱聲溢る、講演は必ずや聽講者の聽裡に、世の注視を集めつつある中小商業者問題の認識を深めた事と思ふ。「講演内容」商業研究に掲載

一月十一日、新春早々、商研發展を如實に象徴しつゝある機關紙の第五號を發刊し得たことは待望久しき會員にとりて喜びに堪へない。

今や我國が長期建設に邁進し、平和産業の工場も、續々と軍需工場に變り、或は秘密工場に化身し、工場見學も思ふにまかせず時局の認識新らたなるものがあるが、我々は之を契機として、斯る機關紙の發行、講演會、討論會の開催に力を致し、益々關大文化の向上發展の爲に盡す可く邁進しようと思ふ。

高本年度最後の事業として講演會、社會見學を各一回以上行ふ豫定（記録部）

### 東亞研究會（専門部）

支那事變第三年目を迎へる今日新興支那臨時政府樹立、中南支の自治會市政府の大舉新政權合流も豫想され有爲なる日本青年の活躍舞臺が期待される。

支那民族を導くに支那語が必要で有り又滿洲國の資源開發にも此の語學が必要である。當研究會は此れを重視して今や

## 學

### 皇陵崇敬會

#### 第四次第廿二回例會

一月廿九日（日曜日）弊會本年度最後の例會を催す、午前八時五十八分大鐵阿部野驛を出發目的地大和池尻へ向ふ、車に揺られること一時間、午前九時五十八

## 生

分同驛に下車先づ宣化天皇陵へ……本日空は一點の雲も認めず冬の陽はやわらかく早春を思はず様に暖い、一二寸伸びた麥の島を左右に眺めながら畦道づたいに行くことしばらくにして御陵を拜す、一同大御前に國運の隆盛と皇軍の武運長久を祈願す、次いで倭彦命墓へ更に東して

會員實に三十數名に及ぶ、十二月十三日相生橋の出雲屋に於いて與平先生の御出席の下に本年度卒業生高橋、石田兩君を送る送別會が行はれた、ついで昭和十四年度役員を決定す。  
幹事長 井上 清 總務 岸田善次郎  
會計主任 藤本幸彦 同係 富永啓之助  
討論主任 矢内原惠一 同係 河本繁二  
同 係 吉竹 宏  
外交主任 橋本 照 同係 土肥良夫  
同 津村 一  
記録係 吉武喜久雄 同係 楠崎 健  
一月二十日午後七時より天五ヶ光にて三年生會員招待會を開催し、過去東研の爲盡力して下さつた勞をねぎらつた、三年生會員の挨拶、將來等に關する話に花を咲かす、中でも嘉手川、井上兩君が東研の本旨にそふべく大陸へ進出されたと聞く、兩君の成功を心から祈つて止まない、參加會員十七名

孝元天皇陵へと巡拜す、以上で此の地方の豫定を了へ久米寺驛に引返し電車で櫻井を経て三輪へ、此處では官幣大社大神社に祈願をこめ、北上して左手に倭迹々日百襲姫命墓を拜し次いで景行、崇神、兩天皇陵、繼體天皇皇后陵へと歩を進め最後の参拜を終へたのは午後四時十分前であつた。此より更に北上官幣大社大和神社に詣て丹波市へ出て大阪行の電車の人となつたのは午後五時四十八分であつた、尚本日の巡拜行程は左記の通である。

第二十八代宣化天皇身狭桃花鳥坂上陵

倭彦命身狭桃花鳥坂墓  
第八代孝元天皇劔池島上陵  
倭迹々日百襲姫命墓

第十二代景行天皇山邊道上陵  
第十代崇神天皇山邊道勾岡上陵

繼體天皇皇后手白香皇女衾田陵  
官幣大社 大神神社、大和神社  
(参加者) 倉長河村信一教授、北川、尾崎、濱田、安藤、荒木の諸君

参 陵 會

第三次第七回例會  
一月二十二日(日曜日)からりと晴れた上天気である。定刻九時三十分、早くも全員顔籠れが揃ふ。河村先生のお顔も見える。

大軌上六驛出發、櫻井驛へと向ふ。本日の徒歩行程約三里強。陽光燦として輝

く中に、じつとりと、にじみ出て来る汗を拭ひながら、山路を共に語らひつゝ登つて行く。行くことしばし第三十二代崇峻天皇倉梯岡上陵に着き参拜す。河村先生には、特に赦されて玉垣の内にて謹んで参拜された。この御陵に於ける御室堂は日本全國唯一のものであるてふ御説明を承はる。

舒明天皇押坂内陵に向ふ、こゝを拜して後、一行は櫻井町の大西君宅に赴き、中食を頂戴す。その後、多武峯よりバスにて葛地に田圃の間を柳本町へと向ふ、かくて、景行天皇山邊道上陵を拜し、續いて崇神天皇山邊道勾岡上陵を巡拜す、時に五時これにて解散す。

出席者 河村先生、(特別會員、南)面地、山根、澤田、田坂、萬井、濱崎、寺島、松井、波多野、南部、杉本、平野、大谷の諸君

基督教青年會 (千里山)

興亜の新春を迎へ精神運動特に宗教運動の再認識を叫ばれる今日、會員一同希望を持つて進みたいと思つて居ります。萬國基督教青年會祈禱日、十一月十七日午後七時より自由基督教會に於て西阪保治牧師の奨勵にて一同祈りの一時を持ちました。参會者十名

大阪學生基督教青年會聯盟クリスマス十二月三日午後六時半より全大阪のクリスマスのトップを切つてランパス女學院

にて守られました。關西學院中學部長田中貞先生の熱ある御奨勵に一同感涙にむせびました。参會者百餘名、本學クリスマス 十二月二十日、先輩宮地兄宅にて同兄の御奨勵にて有意義に惠まれた集會でした。参會者十名

新年祈禱會 一月六日、午後六時半祖國の爲に祈る會を安田兄宅にて持ちました。出征會員一同寄書きの激勵文を送りました。(マタイ傳二五ノ一四以下二八)

千里山吟詩部

千里山吟詩部では創立以來着々としてその内容を充實し、對外的にも吟士派遣など其の活躍に見るべきものがあつたが愈々本年度學友會に於て絶體多數を以て公認さるゝに至つた、例年の如く先學期末第三回學内優勝吟詩大會を開催す、優勝者に記念品賞状を二三等に賞状を授與し其の他出吟者に夫々記念品を呈す。

十二月二十四日中ノ島公會堂に於ける大毎主催の歳末同情週間義金募集の吟詩大會に高二飯沼勝君を出吟せしめ大いに關大學生の意氣を發揚す。

新聞部 (千里山)

今や時局多事にして人的資源の擴充が叫ばれてゐるに當り、千里山學友會發行の關西大學新聞は發刊質に八十數號に及

び、其の目的たる内に學友會との相關的支持、外に文化交流の使命等々達成の爲に努力してゐるが、昨年十一月二十三日法政大學新聞學會々員四名の西下に第三回法政文化交流座談會を時局に關する問題をテーマとして、即

- 一、勤勞奉仕 二、體位向上 三、時局と學生の娛樂 四、戰爭ルポルタージュ

右記四項で開催、多大の成果を挙げ(關西大學新聞十四年正月號参照)たが、其の後卒業生の移動に依り、役員は左の如く決定した。

- 總 務 村 上 芳 治
- マネージャー 安 田 義 哲
- 副マネージャー 稻 森 道 彦

不許複製

大正十一年六月十五日創刊  
昭和十四年二月十日印刷  
昭和十四年二月十五日發行

大阪府東淀川区長柄中道二丁目十二番地  
關西大學新聞部  
發行所 關西大學學報局

印刷所 谷口印刷所  
大阪府東淀川区長柄中道二丁目十二番地

關西大學  
大阪府東淀川区長柄中道  
本館電話 五〇三九  
專門部電話 七〇〇〇  
振替 大阪一三六七五

千里山學會 大阪市外千里山  
電話 吹田四六一三

# 生 徒 募 集

## 募 集 人 員

第一學年 約二〇〇名

## 願 書 受 付

第一期 三月一日ヨリ同二十日マデ

第二期 三月一日ヨリ同二十五日マデ

大阪市東淀川區長柄中通二

## 關西甲種商業學校

電 堀 川 一 五 六 〇 番

## 入 學 考 査

第一期 三月二十二日 (國 史)

同 二十三日 (人物考査、體格檢査)

第二期 三月二十七日 (國 史)

同 二十八日 (人物考査、體格檢査)

(入學案內呈)

## 募 集 人 員

第一學年 (高小卒) 四學級

第二學年 一學級

## 出 願 期 限

二月十三日 (月) ヨリ三月二十日 (月)迄

日曜祭日ヲ除キ午後四時ヨリ同六時マデ受付

大阪市東淀川區長柄中通二

## 關西 大學 第二商業學校

電 堀 川 一 五 六 〇 番

## 入 學 考 査 (口答試問、人物考査、體格檢査)

三月二十一日 (祭日) 午前九時ヨリ

又ハ 三月二十二日 (水) 午後五時ヨリ

## 本 校 の 特 色

▽夜間甲種商業

▽修業年限四ヶ年

▽上級學校入學連絡(關西大學豫科及専門部無試験入學ノ特典アリ)

(入學案內呈)

# 關西大學學生募集

大學豫科 (第一、二年制)  
第一 豫科 (三年制)  
第二 豫科 (二年制)

出願期間 二月一日ヨリ四月七日迄

試驗日 四月八日及九日

大學部 (法文學部——法律、政治、哲學、英文  
經商學部——經濟、商業)

出願期間 二月一日ヨリ四月三日迄

試驗日 四月四日

專門部 (第一部 (晝) 法律、經濟、商業  
第二部 (夜) 法律、經濟、商業  
國漢、英語)

出願期間 三月一日ヨリ三月三十一日迄

試驗日 第一部 四月六日及七日  
第二部 四月三日 (祭日)

學則送呈 (郵券三錢)  
豫科、學部 (千里山學舍庶務課)  
專門部 (天六學舍庶務課)

(番一六四番三二一田吹電) 山里千外市阪大  
**舍學山里千 科豫・部學**

(番九三〇一川掘電) 通中柄長區川淀東市阪大  
**舍學六天 部門專**